



ほけんだより

20年度7月号
明照保育園



【子どもの健康状態】



6月中の主な欠席理由は発熱でした。中には熱が続いて肺炎で入院した子もいました。感染症の報告としては、溶連菌感染症（幼児1人乳児1人）、ヘルパンギーナ（幼児1人）、結膜炎（乳児1人）があり、他に下痢（4人）、ぜんそく（1人）でした。豊橋市からも手足口病、溶連菌感染症、水ぼうそう、ヘルパンギーナが流行していて、ヘルパンギーナについては警報が出ているため特に注意が必要だという報告がありました。

【気をつけよう 夏の病気】

★ヘルパンギーナとは・・・夏かぜの一種で、のどの奥に水疱ができ高熱が出ます。水疱がつぶれると痛みがあり、食欲が無く不機嫌になります。

★プール熱とは・・・夏かぜの一種で、発熱、のどの痛み、結膜炎などの症状があります。プールで感染することが多いため、こう呼ばれています。



かかってしまったら・・・汗と高熱で脱水症状を起こしやすいので、水分補給を心がけましょう。高熱が出たら医師の
もう一度診断を受けましょう。

調理に工夫を・・・のどの痛みが激しい時は、かまずに飲み込めるものにしましょう。痛みを刺激するような熱いもの、冷たすぎるもの、酸味のあるもの、塩味のきついものは避けるようにしましょう。

予防にはやっぱり

うがい てあらい



【他の子にうつる前に予防しましょう】

★アタマジラミ★

子どもの髪の毛に寄生します。1週間くらいで髪の毛に産み付けられた卵からかえり、約3週間で3回脱皮して成虫に。成虫の寿命は1～1ヵ月半。成虫は1日に約5個の卵を頭髮の根元付近に固着させて産卵。成虫、幼虫ともに血を吸うので頭がかゆくなります。主に頭髮と頭髮の直接の接触で感染します。

集団生活の中で、かかっても軽くすむ子と、ひどくなって他の症状も合併してしまう子等、体質によって様々です。他の子にうつさないためにも
予防しましょう！！

子どもに多いのは、頭を触れながら遊んだり、昼寝したりするため。園でも1日1回チェックし、見つけたらすぐにお知らせしますが、確実なのはご家庭でも注意して見るのが大切です。



*** うつってしまったら ***

まず**担任に報告**して下さい！！病院や薬局で相談し、早急に駆除をしましょう。

◎ 専用の駆除剤（シャンプーなど）で3日に1度（3日おき）のペースで3～4回繰り返す。

◎ 目の細かい専用のくしで、卵や成虫をすきとる方法もあります。

（注意：駆除は途中で終わらせなくて、1～2時間かけて一度で済ませます。）

◎ 卵には薬剤は効かないので、枕カバー、シーツ、タオル、帽子などは共有せず、毎日取り替えて、熱処理をしてから洗濯を！！熱湯や乾燥機、アイロンで除去できます。

（60℃以上の温水または温風で5分以上処理すれば完全に成虫と卵の駆除が可能）

常に清潔にしていたとしても、小さい子どもの集団生活では頭部の清潔不潔に無関係でうつります。早めの駆除が発生拡大の防止につながりますので、ご協力よろしく願います。

★ **水いぼ** ★ ウイルス性のイボで、硬くてつやがあり、真ん中がくぼんでいます。脇の下、脇腹、股の付け根など、皮膚と皮膚がすれ合うところによくでき、イボがつぶれるとうつります。接触により直接感染します。タオルなどから間接接触もします。

うつってしまったら・・・放っておくと体中に広がります。ひとつでも水いぼを見つけたら、すぐに病院へ行きましょう。（時間をかければ自然に治りますが、集団生活をしていると他の子にうつしてしまうことになります。）



★ **とびひ** ★ 虫さされやすり傷に菌が入り、感染する皮膚病です。透明な水疱ができ、それが白く濁ってきます。水疱は破れやすとかゆみもあるため、かきむしることで菌がうつってしまいます。

うつってしまったら・・・子ども自身の体だけでなく、他の子にうつってしまいます。なるべく早く医師の診断を受け水疱をガーゼなどで覆いましょう。



【おわりに】

梅雨明けも間近。急に暑くなると体が適応できなったり、体力が落ちる時期です。睡眠・食事・適度な運動と、日頃からの生活リズムがより大切になってきます。早めに就寝して疲れをとり、食事をしっかり食べて元気に遊びましょう！！

